

令和 2 年 度

# 教 育 行 政 方 針

根 室 市 教 育 委 員 会

I	はじめに	.....	1
II	教育行政に臨む基本姿勢	.....	2
III	主要施策の展開		
	1. 社会を生きる力の育成	.....	3
	2. 豊かな人間性と健やかな体の育成	.....	5
	3. 子どもを育てる環境づくりの充実	.....	8
	4. 生涯学習活動の充実と文化・スポーツの振興	.....	10
IV	むすびに	.....	13

## I はじめに

令和2年の根室市議会3月定例会議会の開会にあたり、教育行政に臨む基本的な姿勢と主な施策について申し上げます。

現在、国が目指している次世代社会 Society5.0 は、膨大なデータ蓄積から問題の最適な答を導き出すとともに、モノとネットが直接つながる I o Tにより人が情報の選択・分析作業から解放される社会であります。また、例えば過疎地にいながら専門医の遠隔診断を受け、ドローンで荷物を受け取るなどのニーズに対応できる社会であり、更には重労働や単純労働を自動ロボット化し、人が他の創造的な仕事に主体に携わることができる人間中心の社会「スマート社会」であるといわれております。

そして、このように、これまで創られてきた価値が失われるリスクと、新たな価値が生まれるチャンスとの両方が混在する社会を生き抜いていくためには、新たなものへの対応力や創造力を育成することが急務であり、現在、国においては、学習指導要領の改訂など教育改革が進められ、子どもたちには、こうした社会の変化に主体的に向き合いながら、自らの未来を拓いていく「生きる力」が求められているところです。

根室市教育委員会では、このような情勢に鑑み、地域の将来を担う子どもたちが、ふるさとへの誇りと愛着を持ちながら、世界

に視野を広げ、社会を支えていくたくましい人材へと育っていくことができるよう、市民の皆様のご理解とご協力を得ながら、すべての教育関係者と一丸となって、当市の教育の充実・発展に向け取り組んでまいります。

## Ⅱ 教育行政に臨む基本姿勢

こうした認識のもと、日々の教育行政におきましては、第9期根室市総合計画の「個性を伸ばし豊かな心と感性を育むまち」を目指すことを基本とし、子どもたちがたくましく社会を「生きる力」を育成することを始め、互いを思いやり生命や個性を尊ぶ「豊かな人間性」と「健やかな体」の育成や、学校・家庭・地域が連携して子どもを育てる教育環境づくりの充実、さらには、市民一人一人の生涯にわたる学習活動の充実や、歴史・文化への理解を深めスポーツに親しむための効果的な施策を展開してまいります。

## Ⅲ 主要施策の展開

次に、こうした基本姿勢のもと、主な施策について申し上げます。

## 1. 社会を生きる力の育成

まず第1点目は、「社会を生きる力の育成」であります。

子どもたちがこれからの人生を主体的に切り拓いていくためには、新学習指導要領の趣旨を見据え、学びに向かう力を養い、生きて働く知識・技能の習得や、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成に取り組むとともに、個々の特性や障害にかかわらず共に学ぶインクルーシブ教育を進め、ニーズに応じた個別支援により、学力の向上と今後の共生社会を生きる子どもたちの育成を図っていくことが重要です。

- そのため、学力向上につきましては、校長・教頭・教諭の代表と教育委員会で組織する学力向上推進プロジェクトチームからの提言や北海道教育委員会の各種取組との連携のもと、学力や学習状況の把握・分析と指導方法の改善を連動させる検証改善サイクルの確立に引き続き取り組み、各学校において、よりスピード感のある授業改善を目指してまいります。
- なお、全国学力・学習状況調査では当市の児童・生徒のうち相当数が全国の学力下位層の範囲に含まれる結果となっていることから、こうした児童・生徒に対する指導方法を更に充実させ、根室市全体の学力向上につなげてまいります。
- また、引き続き学力向上対策の全国的な先進地域に教員を派

遣するとともに、当市に教員を招聘し模擬授業を行うことなどを通じ、教員の授業力の向上を図ってまいります。

- さらに、学力向上等補助教員を活用した習熟度別指導・チーム・ティーチングに加え、新たに放課後教室・児童館指導員による小学校低学年の授業補助をスタートさせ、更に国や北海道における各種支援事業の教員加配を積極的に活用して、個に応じたきめ細かな学習指導を進めてまいります。
- また、新入学児童の小学校生活の円滑なスタートを図るため、接続カリキュラムの充実や「子育てファイル”りんくす・ねむろ”」の効果的な引継ぎなどにより、幼稚園・保育所と小学校との連携を進めてまいります。
- 加えて、小学校と中学校についても更なる連携推進に努め、幼・保・小・中それぞれの段階において、「いままで」の学習内容をしっかりと定着させ、「これから」の学習内容を着実に積み上げていくことができるよう、個々の子どもたちが必要とする支援に努めてまいります。
- また、通常学級在籍で特別な支援を要する児童・生徒の学習活動を支援し、教員の円滑な授業をサポートするため、特別支援教育支援員や介助業務員の拡充に努めます。
- さらに、このような児童のため週に数時間の特別な支援を行

う通級指導教室を、現行の花咲小学校に加え、新たに成央小学校に開設し、支援の充実を図ってまいります。

- また、児童・生徒が、個々の特性に応じた適切な支援を受けることができるよう、道立特別支援学校分校・分教室の当市への誘致実現に向け、引き続き北海道教育委員会に要望してまいります。

## 2. 豊かな人間性と健やかな体の育成

第2点目は「豊かな人間性と健やかな体の育成」であります。

子どもたちの健やかな成長のためには、尊重し合い思いやる心、自己肯定感、規範意識を育むとともに、充実した人生を送るための基盤となる健康の保持増進や体力の向上が重要です。

また、将来、郷土根室を支える人材として、郷土を深く理解する教育にも積極的に取り組む必要があります。

- そのため、新学習指導要領に基づき、「特別の教科 道徳」を要<sup>かなめ</sup>に学校の教育活動全体を通じて、子どもたちが自己の生き方を見つめ、主体的に考え、行動し、自立した人間として成長していくための基盤となる道徳性を養ってまいります。
- また、「根室市いじめ防止基本方針」に基づき、今後とも学校・家庭・地域・関係団体の連携を一層強化しながら、啓発・

学習活動に取り組み、望ましい人間関係の醸成と、いじめの未然防止・早期発見・適切な対処に努めてまいります。

- さらに、子どもたちが自らいじめについて考え、行動する力を育むため、全小中学校の代表が参加する「子ども会議」を引き続き開催してまいります。
- また、22時に携帯電源を切る「スイッチオフ22」運動や「生活リズムチェックシート」の活用などにより、学校と家庭が連携して基本的な生活習慣の確立を図るとともに、子どもたちがトラブルの被害者や加害者にならないよう、ネット利用に関する家庭のルールづくりを促進してまいります。
- 次に、ふるさとを理解し、その発展に貢献する意欲や態度を育成するため、北方領土返還要求運動原点の地として北方領土学習を一層深め、正しい歴史認識と主体的に考える気持ちを育み、未来に向けて考えていく態度を養ってまいります。
- また、地域の特色を生かした地域学の実践を進め、郷土根室の歴史や自然、産業などの魅力を理解し、郷土を愛する気持ちを育んでまいります。
- さらに、食育の一環として「ふるさと給食」を引き続き実施し、地域の生産品を通じてふるさとを理解し、その発展に貢献する意欲や態度を育成してまいります。

- 次に、子どもたちの体力向上に向け、運動やスポーツに親しむ機会の創出や環境づくりを図り、楽しさを味わい達成感が得られるよう、引き続き授業改善や「1校1実践」などに学校全体で取り組むとともに、スポーツ少年団・スポーツクラブの育成・支援、指導者養成などに努めてまいります。
- また、文化・スポーツにおいて児童・生徒の活躍を支援する「みらいのアスリート・アーティスト応援事業」を引き続き実施し、各種大会への参加助成や講演・講習、作品展などの開催を通じ、日本や世界で活躍するアスリート・アーティストを目指す子どもたちを育ててまいります。
- さらに、本年度から第2期がスタートする「根室市子ども読書活動推進計画」に基づき、「子どもブックライフ応援事業」に、おなかの中の赤ちゃんに絵本を読んで語り掛ける「マタニティブック事業」を新たに加え、乳幼児や小学校1年生児童に対する「ブックスタート事業」・「セカンドブック事業」と合わせ、学童期まで途切れなく、子どもたちの本との出会いや交流の場を支援してまいります。
- また、千島海溝沖巨大地震や津波など自然災害から身を守るために必要な知識や能力等の育成に向けて、市長部局や地域と連携した防災教育の一層の充実を図り、学校の安全確保に努め

てまいります。

### 3. 子どもを育てる環境づくりの充実

第3点目は「子どもを育てる環境づくりの充実」であります。

児童・生徒数の推移や多様化する教育ニーズ等に対応するためには、適切な教育環境の整備と教育機能の維持向上を図っていくことが重要であり、また、地域で子どもを育てる取組を充実させ、さまざまな交流を通じ、さまざまな体験を積み重ね、豊かな感性や情操を育成していくことが大切です。

- そのため、光洋中学校と啓雲中学校の統合や、柏陵中学校の旧根室西高等学校校舎への移転に必要な改修を行い、教育環境の整備を図ってまいります。
- また、光洋中学校と啓雲中学校両校の生徒交流等に配慮し、その円滑な統合に向け準備を進めてまいります。
- なお、統合後の啓雲中学校跡地につきましては、花咲小学校及び花咲放課後教室を移転する準備を進め、老朽施設の解消を図ってまいります。
- また、本年度から歯舞小中学校を、小学校から中学校まで9年間の義務教育を一貫して行う義務教育学校「歯舞学園」として新たに開校し必要な改修を行うほか、各学校から多くの要望

が寄せられている修繕箇所について解消に努め、教育環境の整備を図ってまいります。

- 次に、今後、保護者や地域全体で子どもたちの成長を支えることができるよう、専門的な知識・経験を有する人材を活用し、学校運営の改善・充実につなげる「コミュニティ・スクール」につきまして、引き続き調査・研究を進め、本格導入に向けたモデル試行の準備に取り組んでまいります。
- また、このたび全小中学校に整備した Wi-Fi 環境のもと、教育情報化推進計画や文部科学省のギガスクールネットワーク構想に基づき、児童生徒一人に1台の学習用端末や大型ディスプレイ等の計画的整備に取り組み、プログラミング教育を始め情報教育の推進に努めてまいります。
- さらに、「学校における働き方改革のための業務改善計画」に基づき、教員が自らの専門性や人間性を高め、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことができるよう、校長会等と連携して、時間外勤務等の縮減に取り組んでまいります。
- また、民間活力の導入により教員専用アパートの整備を進め、教員の住宅環境の向上を図ってまいります。
- 次に、学校給食費につきましては、引き続き第3子目以降の無償化と第1子・第2子に対する支援策を実施し、食材費高騰

等の影響が保護者負担に生じないように努めてまいります。

- また、現在の北斗・成央・光洋の3学校給食共同調理場を集約するセンター化につきましては、引き続き早期の実現に向けた調査研究を進めてまいります。
- 次に、子どもの放課後活動につきましては、国の「新・放課後子ども総合プラン」を基本として本年度からスタートする新たな「根室市放課後子どもプラン」に基づき、すべての子どもたちが多様な体験活動に参加し、安全・安心に放課後を過ごすことができる居場所づくりに努めてまいります。
- さらに、子どもたちが自ら考え行動し、集団活動におけるルールやマナーなど社会性・協調性を育む交流・体験活動を実施し、青少年活動リーダーの発掘・養成に努めるなど、引き続き青少年の健全育成を推進してまいります。
- なお、学校教育の喫緊の課題について専門的な立場から学校現場との連携・調整を担うため、教育委員会事務局に学校教育指導室を新設し室長・主幹の指導主事2人体制へと拡充し、各種取組の積極的な推進に一層努めてまいります。

#### **4. 生涯学習活動の充実と文化・スポーツの振興**

最後、第4点目は「生涯学習活動の充実と文化・スポーツの

振興」であります。

市民一人一人が、心豊かで健康な生活を送るためには、歴史・文化への理解を深めスポーツに親しみながら、生涯を通じて積極的に学び、その成果を生かせる環境づくりが大切です。

- そのため、公民館活動につきましては、生活・芸術文化・趣味・教養などの市民要望や根室の生活・地域課題に基づきながら各種講座を開催するとともに、幼児期から高齢期にわたる学習機会を提供し、市民の自主的・主体的な参画を進めるなど、生涯学習活動の更なる活性化に努めてまいります。
- 次に、文化の振興につきましては、根室市総合文化会館事業協会と連携した優れた舞台芸術鑑賞機会の提供・充実や、創立60周年を迎える根室市文化協会等との協働による市民の芸術文化活動の支援に今後とも努めるとともに、総合文化会館の施設改修など利用環境の充実を図ってまいります。
- また、国が推進するアイヌ施策に沿って、北構保男氏から寄贈いただいた貴重な北方資料の中から、特にアイヌ文化関連資料につきましては、歴史と自然の資料館で展示・公開に取り組んでまいります。
- さらに、国指定天然記念物「カラフトルリシジミ」等が生息する高層湿原について引き続きモニタリング調査を実施し、動

植物の生息状況等の実態把握を行ってまいります。

- また、文化財を活用した広域的な観光振興を目指す「日本遺産」につきましては、海に臨む管内1市3町で「鮭の聖地」のストーリーにより共同申請書を提出し、再挑戦しているところであり、今後、認定の可否を見据えながら、引き続き文化財の適切な活用にかかる情報発信等に努め、当市の貴重な歴史や自然の普及・活用に取り組んでまいります。
- 次に、スポーツの振興につきましては、「市民一人1スポーツ」を目指し、市民が日常生活の中で生涯にわたってスポーツ活動に親しむことができるよう、スポーツ環境の整備を図るとともに、各種団体との連携・協力の下、指導者育成やスポーツに触れ合う機会の拡充に努めてまいります。
- また、「東京2020オリンピック・パラリンピック」開催に向け、当市においてもオリンピック聖火リレーが開催されることから、市民の記憶に残り、子どもたちに夢を与えることのできる各種セレモニーを開催してまいります。
- さらに、「最東端ねむろシーサイドマラソン」につきましては、昨年、過去最高のエントリー数となるなど好評を博していることから、本年も市民の健康増進や体力の向上、そして、全国から当市を訪れるランナーとの貴重な交流の機会として、地

域振興や北方領土問題啓発にも資する競技大会となるよう努めてまいります。

- また、総合体育館の建設に向けましては、市民の意向調査を基にした「整備市民委員会」の協議・検討の結果を踏まえ基本方針を取りまとめ、今後の基本構想の策定を目指してまいります。
- 最後に、図書館活動につきましては、市民の読書活動や学習活動を支える拠点施設として、蔵書整備など利用環境の充実を図るとともに、図書館ボランティアを始めとした各協力団体と連携しながら「大人のための読み聞かせ」や「まちなかライブラリー」、「高齢者図書お届けサービス」など各種事業に取り組み、市民に読書の楽しみを広げてまいります。

#### IV むすびに

以上、令和2年度の教育行政の基本的な考え方と主な施策について申し上げます。

ここに、「自分は価値ある人間だ」と思っている若者が日本は4割、アメリカは8割、中国・韓国は9割近くあり、逆に、「自分はダメな人間だ」と思っているのは日本は8割、アメリカは5割、中国・韓国は3割から4割という調査結果があります。一方、

「私の参加により社会は変えられるかもしれない」と思っている若者は日本は3割でアメリカは7割と、明らかに日本の若者だけが特異な状況にあります。

もちろん知識やスキルは大切ですが、自分の生きる価値を認める自己肯定感や、自分が社会を変えるという自己有用感がない限り、新しい時代を創り出していくことはできません。

AIやIoTなど科学技術の進展による社会変革、グローバル化、サイバーセキュリティやプライバシー保護、地球温暖化、資源の枯渇、人口減少など、多くの新たに困難な課題がある中で、まさに想定外や「板ばさみ」に向き合い乗り越えられる人材、AIで解けない問題・課題・難題に向き合える人材、創造的・協働的活動を創発しやり遂げる人材など、これからの社会を生き抜いていく人材をどうやって輩出していくのかが大きな課題であり、教育委員会といたしましては、将来を担う子どもたちが、こうした時代に乗り遅れることなく、社会の変化を的確に捉え、自ら立ち向かい、明るい未来を拓いていくことができるよう、そして、市民一人一人がこれからも生涯にわたって生き生きと学んでいくことができるよう、誠心誠意努めてまいり所存でありますので、市民の皆様並びに議員の皆様には、ご理解とご協力を心からお願い申し上げます。